



ち☆ネット！

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です！

平成30年2月23日 第32回 地域医療ネットワークの会 ALS患者に対する誤嚥防止手術と 退院に向けた支援について

今回は、筋側索性硬化症(ALS)の進行に伴う嚥下障害・誤嚥に続く気道感染症を防止するための誤嚥防止術について知識を深めること、また、手術を受けた方が地域の様々な支援を受けて、在宅療養を継続している様子についての情報交換と意見交換を行いました。

参加施設41施設、参加者数134名。地域医療ネットワークの会を発足して、初めての当事者Aさんと奥様の参加があり、いきいきと生活されているその様子に参加者皆がエネルギーをもらった会となりました。



座長 聖マリアンナ医科大学病院 神経内科医師 白石 真
ALS患者の事例紹介 聖マリアンナ医科大学病院 神経内科医師 山徳 雅人
誤嚥防止手術の実際 聖マリアンナ医科大学病院 耳鼻咽喉科医師 春日井 滋
退院支援の実際 聖マリアンナ医科大学病院 メディカルサポートセンター
看護師 永田 ノリ子



嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術の実際、その適応や術後のカニューレ装着には、フィットしにくいなどの問題が生じていることなどが語られました。誤嚥防止手術は、患者本人のQOLの改善のみならず、介護の面からも有用であり、適応のある症例には積極的に行うべきであろうという意見が述べされました。



また、自宅退院に向けては、介護職員による喀痰吸引の提供体制の確保の問題があり、「痰吸引等研修」の現状についてなどが話題になりました。全体ディスカッションでは、在宅療養の現場で働くヘルパー、リハビリテーション、相談センター等で働く人々から、日々の支援で感じていることなど活発な意見交換がありました。

終了後のアンケートでは、「手術の実際がよくわかった。」「神経内科医師と耳鼻咽喉科医師の連携が重要であると感じた。」「全体ディスカッションでは、様々な場所で働く、様々な職種での意見交換ができ有意義な会であった。」と好評でした。

更なるネットワーク強化の一助になれば幸いです。

会の開催にあたり、お話しすることを伝えたところ Aさんと奥様も参加の希望があり、日常の生活についてもお話しをうかがうことができました。お二人の笑顔が素敵でした。(写真掲載については、了承を得ております。)